

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関して

—— 道東での生活を考える



茅野大志

こんにちは。暑い夏が一瞬で過ぎ、道東は冬へまっしぐらですね。私は新型コロナウイルス感染症（いわゆるコロナ）の影響でイギリスからの途中帰国を余儀なくされ、紆余曲折を経て、いまは京都大学で感染症の研究をしています。ということで、せっかくなので、道東で生活する皆さんがコロナとどう向き合っていけばいいのかをショートコメントですが、考えてみようと思います。

道東での感染リスク

9月29日現在、北海道では2000人を超す感染者が出ており、そのうち釧路管内で30名弱、根室管内で数名となっています。数だけを見ると別海、中標津の皆さんは「なーんだ、ほとんど心配ないじゃないか」という気になってしまいます。では果たして本当にそうなのでしょうか。

残念ながら、ワクチンやそれと同等の効果のある介入がなされるまでは、私たちはコロナと付き合っていかなければならないようです。たしかに道東はリスクの低い地域といえるかもしれませんが、感染のリスクは“ゼロ”にはなりません。道東はなんといっても自然豊かな観光地でもあります。コロナの影響で観光客が激減しているとはいえ、それでも一定数の人々が町外からやってきますし、自身が外に出る機会もあると思います。感染症はヒトからヒトへ伝播していきますが、その接触を完全に制限するというのはなかなか難しいことです。



コロナって実際どうなの？

酪農・畜産を営む皆さんであれば「コロナ」と聞くと、冬季の子牛や育成牛を中心に下痢を引き起こす感染症を思い浮かべると思います。数年前に中国で発生したSARSの原因もコロナウイルスです。今回の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は「新型」ではありますが、コロナウイルス自体は珍しくありません。ですが、その症状や致死割合などはタイプによって大きく異なります。新型コロナが季節性のインフルエンザの致死割合より高いのは明らかなようであり、単に風邪のようなものと考えるのは危険です。「高齢(65歳以上)」は明らかにリスク因子であるので、ご自身、もしくは同居している方々は特に注意が必要です。また糖尿病、高血圧、心血管疾患や慢性呼吸器疾患などの持病を持つ人は重症化しやすく、死亡リスクが高いと報告されています。

新型コロナウイルスの特徴としてクラスターの形成というものがあり、たった一つのイベントで数人、時に数十人に感染を広げてしまう可能性があります。さらに、感染の連鎖を止めにくくしている要因として、無症候もしくは軽症患者の割合が多いということが挙げられます。つまり、知らず知らずのうちに自身が感染を拡げているかもしれないということです。「みえにくい」感染症で



あり、そうして気が付くとコミュニティ内でじわじわと感染の伝播が起こっていくのです。誰もが他人のリスクになり得るということは、ご自身もその内にあります。アルコール消毒を毎回やって、いつもマスクを着けていたとしても感染のリスクは“ゼロ”ではありません。そうした観点からも、感染者や関係者を責めたり非難するのはちょっとナンセンスですね。そこにはある程度の「しかたなさ」も確かにあるのです。

いま私たちができること

Go to トラベルに代表されるように、コロナの影響で落ち込んだ景気を回復させようと様々な消費促進キャンペーンが今後も行われるでしょう。そんなときに、ちょっと立ち止まって考えてみてほしいのです。たとえば、家族だけで郊外の公園に…とか、コテージでゆっくり休日を…というような行動は感染のリスクは低いでしょう。しかし、不特定多数の人が密集するような場への滞在は、いまは控えるのが良いと考えます。緊急事態宣言やその後の第二波の様子を見ても明らかなように、ヒトの移動が活発になり、接触機会が増えると顕著に感染者数は増加します。理論的にはワクチンが広く普及するなど一定の対策に目処がつくまでは、国内で単純に根絶されることは難しいのが現状です。長丁場を覚悟し、我々自身が一人一人持続可能な対応を考えていくことが求められます。しかし、あまり神経質にはならず、ゆるりといきましょう(^)/ Stay Safe!